

新以來、所謂開國進取の宏謨に遵ひ廣く智識を世界に求むるに急にして、盛んに外國の文物制度を採用し、幸に國運の隆昌克く今日あるを致したのであります。然し、開國以來經濟競争即ち物質的爭奪の急激なる中に國を投じたので、勢の已むを得ざるものもあつたかと察しますが動もすれば精神教化の方面が知識の開發に伴はざるを憂へしむる傾きも生じたので、知らず識らず、流弊を醸すに至りましたかと察するのであります。

申すまでもなく、我國民は本來、品位といふことを重んずる國民であります。忠孝節義であるとか、謙讓廉恥であるとか、義勇奉公であるとか云ふやうな徳行が、何物よりも尙ばれ、克く死を以て之れに當るといふ美風を造ることが出來たのは、是れ一には長き間の國民的訓練も與りて力あることと信ずるのであるが近時往々にして功利のためには、品位を傷け、體面を害ふても、尙可なりといふやうな風も萌して、國民精神の弛緩を招くに至りましたのは頗る遺憾に堪えぬ所であります。是れは恐らく物質文明を餘りに高調し過ぎたからであると謂はんよりも、寧ろ精神

教化を忽せにしたからであると言はねばなるまいと存じます。

單り我國ばかりでなく歐羅巴でも十九世紀の中葉以降物質文明は愈々極度に發展し十九世紀の終りに至りては所謂世紀末のでかだん思想が滔々たる勢をなし最近に至り有史以來の大戦を誘發し未だ會てあらざる大革命を演出するに至つたのであります。歐米人も此に至りて彼等の所謂近世文明にも大なる缺陷があることを發見したのであります。物質文明唯物經濟は世界平和の唯一の關鍵にあらざることを見出したのであります。戦後漸次反動の思想も勃興いたし歐米人は例の通り不撓不屈の努力によりて平和を招來し新文明を此戦争の廢墟の上に築き上げんとして居るのであります。

翻て我邦の現状を見ますると遺憾ながら我邦の文明は歐米の夫れに比し尙ほ遙かに遜色があります。随つて今後と雖もまだ、大に彼に學ぶの必要のあることは、言ふまでもありません。併しなからこれと同時に、精神教化に於ても益々之を旺盛ならしめ、國體の精華を發揚し、國民性

を向上し、眞に實力あり品位ある國家を造ることに心懸けねばならぬと思ひます。斯くしてこそ初めて歐米最高の文明と拮抗して世界の平和に貢獻して行くことが出来ると思ひます。而して之に到る根底を爲すものは何としても質實剛健なる氣風に在ると存じます。砥勵したる名節、琢磨したる品格が本であらねばならぬと信じます。此基礎の上に實力と氣力が加はりて國家の繁榮を計つて行く所に、大國民としての資格が見ゆるかと思ひます。

然るに此等の點から我邦輓近の情勢を稽へますると、遺憾の點甚だ尠くないのであります。これには色々の原因もあることでありませうが、一般的に申しますると、まだ十分精神教化が行き渡らぬにあると認めざるを得ないのであります。もと／＼品格とか、品位とかいふことを何物よりも重んじた我國民が、景氣のよしあしに依つて、其の守る所を失ひ、或は宜しからぬ宣傳に隨喜して、其の立つ所を忘るゝが如きことは獨り自ら悔る所以たるのみならず、終ひに他の侮蔑を招く所以に外ならないのであります。聖上深く此の事を憂ひさせ給ひ昨年の本月の本日を以て優

渾なる詔書を煥發あらせられ、剛健なる國民精神を作興すべき旨を昭示し給ひましたことは、誠に恐懼感激に勝へざる所で御座います。謹んで惟るに、詔書に仰せ出されて居ります諸々の徳目は、忠良なる國民の履むべき道であり、同時に偉大なる民族としての發達を遂ぐべき金科玉條であります。國民教育も、社會教化も其の眼目とする所は畢竟之れ以外に出でないのであります。之を恪遵することに依つて、初めて品格と實力とを兼ね備へることが出来るのであります。

不肖曩に大命を拜しまするや、銳意、聖旨に副ひ奉らんことを期し、本年六月二十四日内閣訓令を發しまして、先づ庶僚を督勵し官紀の振肅を庶幾いたしました。これは政府自ら綱紀肅正の實を示す必要を感じたからであります。尙ほ中央地方を通じて、行政及財政を整理し由つて以て財界の安定と國力の振興とを圖り、更らに本年九月一日の震災記念には特に聲明を發して、現下の難局に對する國民の自覺を促し、以て勤儉力行の美風を振起せんことを期したのであります。しかし斯の如きことは素より政府の力のみで克く其の完きを得るものではなく、直に朝野協

同の力に須たねばならぬのであります。取り分け直接教化の任に當られて居る方々の奮勵に頼るべきもの、甚だ多いのでありますから、此際特に各位の努力を願ひ、相共に策應して以て所期の目的を貫徹し、邦家百年の安榮を圖りたいと希望するものであります。

今日は幸に親しく各位に御目に懸ることを得ましたのは、私の欣懐とする所であります。乃ち此の機會に於て平素感じて居る所の一端を迷べ祝辭に代ふる次第であります。

全國教化團體代表者大會に於ける祝辭

内務大臣 若槻禮次郎

客年十一月十日國民精神作興に關する詔書渙發せらるる 都下教化團體の、聖旨の普及徹底を期して教化團體聯合會を組織し、銳意之が目的の達成に努むるあり。今又茲に全國教化團體代表者大會を開催せらるゝに到れるは邦家のため慶賀に勝へざる所なり。

方今我邦の最も憂ふべき所は國民思想の動搖にあり、而して其の斯の如きを致せる所以は畢竟國民的自覺に缺くるものあるが爲に外ならず、然れども國民にして一度國家の情勢を察し其使命の那邊に存するかを悟るあらんか翻然として正道に復すべきは又疑を容れざる所なり。知らざるが故に迷ひ、迷ふが故に濫にするは蓋し人情の常なるを以て國民思想の堅實を期せんとせば先づ國民一般の自覺喚起せしむるを要務と爲す、自覺は教化を倭つて起り教化に依て完し此故に教化運動振否が國運の消長に關係する所甚だ重大なるは素より言を待たざる所以なり。念ふに來會各意の分擔せらるゝ教化の方面區々なるべしと雖憂國慨世の至誠に至つては必ず其の撥を一にすべく國家の諸君に期待する所甚だ多きも亦實に之あるが爲なり、然れども教化の事たる素より容易の業に非ず殊に思想問題に至りては匡救指導其の宜しきを得るに非ずんば却て意外の結果を招來するなきを保せず任に教化に當らるゝの各位は深々意を茲に致して萬遺憾なきを期せられん事を望む。

今や時局多難にして國民の奮起を要すべきの秋而も詔書渙發第一週年記念日を卜して教化團體代表者大會の開かれたるは民心を作興し風教を振作するに於て効果必ず大なるものあらん冀くは各教化團體一層聯絡提携を密にして協心戮力以て國家の興隆社會の福祉に貢獻せられんことを茲に一言希望を述べて祝辭となす。

帝國學士院授賞式に於ける祝辭

内閣總理大臣子爵 加藤高明

帝國學士院第十五回授賞の式を行はるゝに方り聊か祝意を表することを得るは余の最も欣幸とする所なり。

今や宇内の列邦競ひて學術を尊重せざるなく廣く智識を世界に求むるの皇謨亦長へに炳然たり宜しく諸れを海外に索むると相俟ちて又諸れを國內に獎むべし本院の篤學精研者を簡び皇家獎學

の盛旨に基きて恩賜賞を授け學士院賞並篤志者寄附の記念賞を贈られ以て學術の壇場に矜式する所あらしめらるゝは其の本旨實に此に存す。

本日賞を受けられたる矢吹文學博士の燉煌所獲の資料に基き湮滅せる唐代の三階教に關して論述精緻を極むる如き物部工學博士の耐震構造に關する理論上の研究を大成して其の軌範を示したるが如き畑井君の動物學上に於ける白鼠の位置を確定し之が生物學上に於ける研究の課程を新にしたるが如き更に會彌理學博士の純粹氣體を研鑽して其の磁氣係數を決定し原子及分子の構造論に對する基本材料を提供したるが如き何れも多年の刻苦碎勵を経て深奥なる前人未發の學理を闡明せられたる獨り學術上に貢獻する所極めて大なるものあるのみならず又實に邦家の進運民人の福祉に裨補する所多し。

願ふに諸君の任務や今後更に一層の重きを加ふべく世の諸君を瞻仰すること亦愈隆なるべきを疑はず冀くば今後益折理鉤玄の功を積み本日の名譽をして一段の光輝を於たしめられ進で邦

家の進運に寄與せらるゝあらんことを。

一言希望する所を陳べ以て祝辭と爲す。

恩賜男女青年團體事業獎勵資金に就て

文部大臣 岡田良平氏謹話

天皇皇后兩陛下の御結婚滿二十五年の御祝儀の佳辰に當り、本官を宮中に召され、全國男女青年團體教育事業御獎勵の思召を以て、特に御内帑を頒ち給ひて金七十五萬圓を御下賜せらるゝ。ありがたき御汰沙がありました。聖旨の深厚無窮なる誠に恐懼感激に堪へない次第であります。惟ふに我が國に於ける青年團は其の淵源遠きも、其の全國的に組織的發達を見るに至つたのは實に大正四年文部内務兩省より發したる訓令に起因し、爾來克く官民協力の下に逐年堅實なる進歩發達を遂ぐるに至り、曩には東宮殿下より忝なき令旨を賜はつた次第であります。併し

ながら未だ其の訓練施設の内容に於ては完璧を得たりとは云ひ得ないのであります。また處女會は青年團に比すれば其の發達稍々遅く、最近青年團の急速なる發達に隨伴して漸次其の成績を擧ぐるに至つたもので、尙遺憾の點が少くないのであります。兩者共今や時代の要求に鑑み其の修養訓練の上に一大革新を要すべき時期に際會して居るものと考へられるのであります。

此の秋に當り此の優渥なる御沙汰を拜し、こゝに男女青年團體教育事業振興上に確固たる基礎が成り立つたと云ふ事は獨り男女青年團員の光榮なるのみならず、將來國運進展の上に大なる効果を齎すものと確信する次第であります。

御下賜金は別項兩省訓令及通牒の通り一萬圓乃至四萬圓の範圍内に於て各道府縣に配附し、之を特別の資金たらしめ、道府縣では更に何等か適當の方法で本資金の増加を計り、其の資金より生ずる利子を以て或は優良團體及團員の表彰、或は指導者及幹部養成施設や之に對する事業費補助、或は男女青年讀物の編纂刊行及調査、或は道府縣聯合團體及市町村男女青年團體に對す

る特別事業費補助、或は男女青年團體に關する研究調査、その他必要なる事業に力を注いで永く此の聖旨に奉答せしめたいと思ひます。

希くば教育の任にある者は勿論一般國民も亦この深厚なる聖旨を日夜に奉戴し、官民協力一致して眞に男女青年團體事業の進歩發達を圖る様に致したいものであります。

陸軍記念日講演會に於て師團長の挨拶

第三師團長陸軍中將 井

上

満場の諸君、私は井上中將であります茲に名古屋新聞社の催に依り講演會に參集せられた諸君に挨拶し得ることは無上の光榮とする所であります。

本日は恰も日露戰爭に於ける奉天戰の最終日の二十週年記念日に相當致します。

其當時戰鬥員は我軍の約二十七萬人に對し露軍は約三十六萬人而かも彼は數ヶ月の日子を費し

て堅固なる塹壕を構築し戰備を整へ有りしに不拘我軍は奮然攻勢に出て二月下旬より十數日間有らゆる困苦缺乏に耐へ惡戰苦闘の後三月十日遂に最後の勝利を決し陸戰上に於きましては茲に敵の死命を制することを得ましたのであります。

我軍が此の史上稀なる大勝を博しましたは素より明治大帝の大稜威に依ることは申す迄もないこととありますが又一には國民の軍隊に對する熱誠溢るゝ如き後援の力に依ることゝ信ずるのであります。實に當時の國民は能く一致團結して困苦を忍び悲慘に耐へ國難に處して勇往邁進其排除に努めたのであります。然るに今日我邦の狀況は内に思想の動搖あり外に國際關係必ずしも樂觀を許さざるものがありました。一朝有事の際のことを想へば誠に寒心に堪へませぬ、宜しく國民一般往年の如く上下愛國の至誠を以て、一致團結此の内憂外患を排除せねばならぬことゝ考へます。

殊に將來の戰爭は一部軍人の戰爭に止まらずして苟も銃を手にし得るものは進で戰線に出で

なければなりません。而已ならず戦争の惨害は獨り戦場に止まらずして大口徑砲或は飛行機に依り爆彈、毒瓦斯彈等の國內致る所に散布せられました其惨害は老幼婦女を問はざる有業を思へば此間に處して能く最後の勝利を制し得るものは實に剛健なる國民精神を基礎とする一致團結の外はないと痛感するものであります。

然るに今日行はれました閱兵分列式に於ける各修養團體の状況を看ますに何れも能く一致團結して規律嚴正隊伍整々歩武堂々愛國の至誠表に現はれ之を見ました私は屢々感激の涙に襲はれたのであります。

斯くの如き情態なれば將來平時と戦時とを問はず舉國一致亦決して難事では無いと信じ頗る頼母しく感じまして國家の爲慶賀措く能はざる次第であります。

茲に聊か蕪辭を述べて祝詞と致します。

團長就任の挨拶

名古屋市長 田 阪 千 助

今回諸君の御推薦によりまして市聯合青年團長に就任致す事となりました。願れば市政の前途は實に多端で將來爲すべき事業が頗る多いのであります。之には市民多數の意志を尊重して總てを慎重に計劃遂行をせねばならぬのであります。其中でも最も重要で根本的のものは健全優良なる市民の教養であります。將來名古屋市の發展に對し幾多の條件中其根本をなすものは人的條件であります。勿論物的條件も必要であります。之が運用は偏に其人によるものであります。此意味に於て青年團の教養には全力を擧げて當らねばならぬ事と考へるのであります。御承知の通り青年團は義務教育終了後滿二十五歳迄の所謂青年期にある人達の自治團體であつてお互に相交り相親しみ更に各種の施設を講じて徳性を涵養し、身體を鍛練し且實際生活に適切なる智

識技能を習得し清新なる娛樂藝術を樂しみ以て人格を完成し、社會奉仕と相俟て自治的及び團體的訓練を行ひ、善良なる市民健全なる國民としての素質を養ひ、進で國運の進展を圖り延て世界の平和に貢獻せん事を期する修養機關であります。本市聯合青年團に於ては既に修養の方針も確立し四綱領三規約十要目も定つて居り團員は夫々修養に努力せられつゝある事と信ずるのである之が連絡統一の機關としての本團長の責は重任なることを自覺するものであります。願はくば各位の御助力を得て其の任を盡し、本團の發展進歩を期したいと思ひます。

東宮殿下御歸朝奉迎

全國青年代表者に對して

文部大臣 中橋 徳五郎

今回諸君が、全國各地青年團の代表者として、皇太子殿下の御歸朝を御迎へ申上げる爲、態々

上京せられたに就て、茲に親しく諸君と會合の機會を得、一言所感に併せて希望を申述べるは私の甚だ欣ぶ所であります。

本年三月三日、横濱埠頭より御發途あらせられた我が皇太子殿下には、先以て英國を御訪問あらせられ、次で佛蘭西、白耳義、和蘭及伊太利の諸國を御歴訪遊ばされ、前後半歳に亘る長途の御旅行なるに拘らず、些の御障もあらせられず、益々御健やかに渡らせられて愈々昨日を以て横濱埠頭に御安着遊ばされ、親しく御英姿を拜し奉ることを得たのは、衷心より慶賀の意を表する次第であります。

抑々我が國の歴史の上で、皇太子の御身を以て海外御巡遊と申すが如きことは、未だ嘗て先例のない御壯圖でありますから、國を擧げて御安泰を御祈り申上げて居つた譯であります。幸にして終始御機嫌麗しく海陸の御旅程を重ねられ、而も御歴訪の歐洲諸國では、何れも官民一同熱誠を罩めて御款待申上げ、殿下に於かせられても御満悦に渡らせられたと漏れ承つて居ります

吾々は友邦に對し、誠意を以て感謝すると同時に、今更ながら殿下の御懿徳の高きことを畏み仰ぐ次第であります。御巡歴諸國に於て殿下に對し奉る御稱讚の聲は、偏に殿下御懿徳の反映であつて、洵に尊き極みであります。而して茲に國民の記憶して置くべきことは、歐洲諸國と我が國との國際交誼上に及ぼされたる影響の偉大なることで、吾々は斯の御偉績に對しては只管感激の外はないのであります。

願ふに我が國は三千年來、牢として動かざる尊嚴無比の國體を有し、殊に明治維新以後國運駁々として日に月に進み、今や五大強國の班に列して、世界平和の維持に貢獻しつゝあるの秋に際し、御聰明なる殿下が御親ら海外に御渡航遊ばされ、國交上一層の親善を御加へ遊ばされたことは、吾等國民の感佩措く能はざる所であります。

前述の如く、友邦との交驩和親に盡させられて、芽出度御歸還あらせられた殿下に對し奉り、滿腔の赤誠を捧げて御祝意を表し且御奉迎申上げる爲、全國青年團を代表して上京せられたる

諸君は、昨日殿下が御歸朝の第一歩を印せられた横濱埠頭に於て御迎へ申上げ、又本日は殿下が御歸還後に於ける最初の賢所皇靈殿並神殿の御參拜に當りて、特に宮城内に於て殿下の御英姿に咫尺して御奉拜申上げることの出来ましたことは實に我が青年團の無上の光榮であり、又諸君各自に於ても家門の名譽として永く記念すべきことと信するのであります。諸君は昨秋皇太子殿下より親しく優渥なる御令旨を拜戴されて以來、常に深き感激を以て日夜修養に努め、只管御聖旨に應へ奉らんことを期しつゝあることと信しますが、今又此の非常なる光榮に浴せられたことは、諸君の衷心歡喜に堪へない所であらうと思ひます。之に就ても次代の國民として、前途の希望に満ち且重大なる責任を有する諸君に於ては、益々地方青年の模範となり、將來君國の爲粉骨碎身して奉公の至誠を致さんとする信念を鞏固にせられたことと信じます。

然るに茲に特に注意を要することは兎角青年期は心身の上に変動の多い時であつて、殊に近來の如き社會風潮の變轉極りなき場合に於ては、往々にして輕佻の思想に惑ひ浮薄の習俗に泌み易

いのでありますから、青年諸君は益々堅實なる思想と、確固たる意思とを以て専ら將來に於ける活動の準備として智徳の修養に力め、常に社會の進歩に後れないことに心懸け、勤儉力行、家運の繁榮を圖り、奉公淬礪、國運の隆昌を期せねばならぬ。是れ即ち上は皇恩の渥きに應へ奉り下は父祖の恩愛に報ゆる所以であると信するのであります。

終りに臨み諸君は益々潑刺たる元氣を養ひ、團員相互に砥礪して、最も眞摯なる修養團體としての實績を擧げらるゝやう切に希望します。

第二回教化事業講習會開會式祝辭

内務大臣 若 槻 禮 次 郎

曩に第一回教化事業講習會の開催せらるゝや、予は祝辭を寄せて聊か希望する所を述べたり爾來一年を閲して茲に第二回教化事業講習會を開かるゝに至れるは斯界の爲寔に慶賀に勝へず。

念ふに教化事業の目的とする所は民風を作興して社會の品位を高め國民の思想を善導して國家の理想に融合せしめむとするに在り斯の事たる素より容易の業にあらず而も其の最も難きは従事者其人を得るの一事となす、是れ蓋し教化團體聯合會が特に地を此處に選びて講習會を開催し中堅人物の養成に努めて以て教化事業の進展を圖らむとする所以なるべし、今や時局頗る多端にして民心の趨向一ならず中正の大道動々もすれば荒廢せむとするの秋に方り風教の振作に志す者明治神宮の神聖なる境域に相互に研鑽を積み進んで聯絡提携の途を講ずる所あらむとするは寔に機宜を得たるの舉にして人意を強うするに足る、冀くば講習員諸氏各々責任の重大なるを思ひ精勵恪勤身心の鍛練に努むる所あり更に其の體驗を實地に活用し教化運動をして一段の精彩を發揮するに至らしめられんことを一言希望を述べて祝辭となす。

第二回教化事業講習會開會式

文部大臣 岡田良平

本日茲に教化團體聯合會主催教化事業講習會開講式を舉行せらるゝに當り一言所懐を述べて祝意を表するは余の欣幸とする所なり。

惟ふに輓近我國の情勢は國民一般の教化を厚うし國民思想の善導に力むべきこと最も急を要するものあり曩に畏くも優渥なる詔書を煥發し給ひ以て國民の嚮ふ所を宣示し給ふ、誠に恐懼感激に禁へざる所なり、國民たるもの上下協力克く 聖旨を遵奉して國運の進展に寄與する所なかるべからず、教化團體聯合會は夙に念を茲に潜め教化事業の普及振作に貢獻せむことを期し創設以來日尙淺きに拘らず銳意其の施設經營に力め實績見るべきものあり、客年地を神域に卜として教化事業に關する講習會を開催せしが今又所を明治神宮外苑に選びて第二回講習會を開設せらる、國民教化の本旨に照して眞に機宜を得たるものと謂ふべし。

夫れ教化の事業は其の關係する所甚だ廣汎にして之が實績を收めんがためには其の施設する

所素より一にして足らずと雖も而も歸する所は其の事に從ふ者の熱誠に依らずんばあらず今次の施設はこの本旨に鑑み其の効果の及ぶ所蓋し甚大なるものあらん、希くは本講習會が能く所期の目的を達成し以て、聖旨對揚の實を擧ぐるに至らんことを。

修養に關する演說例

若人の幸福

青年處女諸君！ 私は若人の幸福といふ題下で恵まれた我々の若き日に對する感想を述べて見

たいと思ひます。

若さに燃ゆる青年！

若さに伸びる處女！

そこには春の姿そのものゝ歡喜と潑刺とした生命の躍動を 見ることが出来ます。恰度今野にも山にも里にも笑ましげに若草の燃え出でる春の色と春の氣とがありますやうに。

春の心は實に若人の心といつてもよいと思ひます。

木にも草にもすべての生命と力とを與へる春の恩恵、この恵みに生ひ立ち伸びて行く若人、誠に若い我々は恵まれてゐます。

この恵に生ひ立ち伸びて行く若人、若さに輝く我々にはどんな希望が宿つてゐるでせう。希望の光は我が胸に燃え、美しい成功の光は遠く前途に輝いてゐます。そして新しい生き方が自分の前に展開されてあります。

新しく生きたい！

創造の日を送りたい！

これこそ眞實に潑刺として新しい魂を持つてゐる人間の本心でありませう、若さに燃える我

々の衷心の叫びでありませう。

希望は人の生きやうとする力でありませう、「如何に生きやう」「かう生きやう」とする考慮欲求で

あります。

若い人々のよりよく生きやうとする欲求はあくまで深く、且つ強く、そして複雑してゐます。

心も體も豊かですべてが活力に充ち満ちてゐます。

けれどもその望むこと、思ふことその一つ一つが容易く實現されるならば人生は餘りに張合のない力の入れ甲斐のないものであります。そこで無數に起る數多の希望にはいろ／＼の障害が伴ふやうに出来てゐます。

若人が希望を抱いて進む道の彼方には一條の道がうねりうねつて續いてゐます。険しい山もあり、野邊もあり、川もあり、谷もあるといふやうに途上は曲折を極め、高低は常に定まつて居りません。

それのみならずその途中には雷雨もあり、暴風もあり、熱沙のやけつくやうな土を歩まねばならぬこともあるし、霜に凍つた土を進まねばならないこともあります。

そこに人生行路難の叫びが生れます。

けれどもこの希望の實現し得ない、いろ／＼な障碍物のあるといふところに却つて人生の意味があり、努力があり、不滅のよるこびが生れて來るのであると私は思ひます。

「人生は希望に多く生き、希望の實現に少く生きる」

こゝに人生があるのではないでせうか。

若い人々の希望は大きい、高い。

その希望が大きければ大きいほど、高ければ高いほどその不成功から來る失敗も悲嘆も大きく深い譯でありますこゝに、大きな危険が潜んでゐるのです。

我々は無數の希望に對し、批判し、商量し、出來るだけ價値の高い、自己の能力と境遇にあ

つた正しい希望を選んで、その實現に自身の全力を集中して、眞に自己を生かし切ることを忘れてはならないと思ひます。

若い我々の希望には新生の創造が含まれてゐます。この新しい生き方、それはたゞ無爲にして得られるものではありません、時勢は進展します、思想は流れて來ます。このうづまきの中にあつては自己の本來の生活を自己の信實の力で建て、行く用意がなければなりません。未來の生活に向つて自分の新しい力量を力の限り試みやうとする不斷の努力がなければなりません。

自己の信する一念を以てこの若い女性の自己をより大きくし、より強くし、より深くして、生きる限りを最高最善の生活となさしめるために、與へられたこの人間性を残りなく發揮してほんとうに生き甲斐ある生活に入らなければならぬと思ふのであります。

そして、かくするには、何よりも信實の自己にふれ眞の自己を知ることが大切です。人間としての自己はどうして生きるか、社會の一員としての自己は、陛下の赤子としての自己は、と眞に

自己を知つて能力の限りを盡し自己の生命をよりよく生かさねばならぬと信するのであります。

アルプスで名高い瑞西の山案内者は、若い登山者に

ゆる／＼と休まずに。

かけ出さずぐ／＼せず。

といふ注意を常にくりかへしてゐるといふことでありますが、我々の人生の歩みも又これではな

ければならないと思ひます。若人の行くべき道は遠い、けれども決して急ぐには及びません、絶えざる歩みと休まざる精神とをもつて、大きな力を深々と彼方に感じ、希望に向つて眞直に進みたいと思ふのであります。

自己を知ること

諸君！ 私は五分間演説の選に當りまして茲に「自己を知ること」といふことに就て一言申上

げます。

「自己を知ること」この言葉は短いですがこの言葉の持つ意味はなかく深くあります。私達は「自分で自分が分らないといふ言葉をどんなに多く用ひねばならないことでありませう。

自己の眞價を正しく知することは困難なことであります。私達は動もすれば自己を自己以上に評價したり、反對に自己を縮少して弱い弱いものにしてしまつたりしてゐます。これ等は事物を正確に見る明が足りないからで、周囲の事情や理解や、遠い將來に關する智識が缺けてゐるからに外なりません。

それなら自己を正しく知るにはどうしたらよいでありませう、眞に自己を知る道はどこにあるのでありませう。

眞に自己をしてその自己を育て、ゆくためには豊富な智識、確實な智識が必要であると思ひます。廣い智識と、深い智識とを得てそうして理知の光によつて道を正しく踏んでゆくことが大切

であると思ひます。

智識に次いで趣味の向上であります。豊かな趣味に生き、日常生活を美しくすることによつて人間味ある人間に育つてゆくことが出来ます。

第三には實行にうつすべく強い意志の力が必要であると思ひます。獨立自主の精神をもつてそれを得ることにつとめ雄々しく進むことが必要であります。

眞に自己を知り自己の生活を深めたいと思ふなら私達はこの三つを得なければ駄目であると思ふのであります。

智識を求めよ

私達は自分の日常生活といふものをふりかへつて見るときその餘りにも不徹底のことがあります。不_まをしたり誤解をしたりしてゐるのゝ多いのに驚かされます。そしてそうした原因はど

こから來てゐるかによく考へて見ますと、大抵は智識の足りないことから來てゐる場合が多いのであります。

結婚による悲哀もこの無智、無理解とから來るものが多いのであります。一時の感情の昂奮によつて結婚したり、富や名譽に目を眩まされて嫁いで後に取りかへしのつかぬ悔をするなどまたしかに自己に對する無理解の罪であります。

イブセンのノラは八年間も共に暮してゐた夫から一個の人形として以上に何等の理解をも受けてゐなかつたことを知つて、その悲しさに堪へやらす家出しましたが、若しノラが初めから目覺めるだけの智識と理解とを有つてゐたなら妻として母としての八年間はどんなに有意義に幸福に充されてゐたか解らなかつたでありませう。

而して物を知るのにはこれを愛さなければなりません。物を愛するにはこれを知らねばなりません。自分を知る、他人を愛するといふ人事に關する問題ばかりでなく、廣く自然界の事に對し

ても、その現象變化を知れば知るほど、そこに一種のなつかしさが湧き、それ等のものが自己と離れ難いものであることを感じ、そこに初めて眞の興味と熱心と追求力とが現れて來るのであります。

物を正しく知るには虚榮に憧れてはなりません。又自己の學識を誇つてもなりません。利慾にまどはされることがあつてもならないのであります。どこまでも心を無にして、たゞその眞相を掴むことに努力することが大切です。

「學者と稻穂とは似てゐる。頭の空虚な間はそり返つてゐるがみのるに従つて次第にうつむく」といふことをよく人は云ひますが、私達も智識の前にはどこまでも謙讓でありたいと思ひます。

私達は生活の眞の意義を見出し、高い理想の實現につとめるために、明確な智識、徹底した理解、深いところまで究めてその根底をしつかりと握るだけの確實な智識を欲しいと思ひます。

併しほんとうに明確な智識を得るにはほんとうに徹底した理解を得るには、自分を自分で築き上げるより外ありません。そしてこれには自重の精神と力が要ります。自らの全精神を注ぎべストを盡して學ぶ事が肝要であります。

若い人達の中には、三年なり四年なり専門學校乃至は最高學府に學んでゐながら社會に出て一向役に立たぬなど、云はれる人がありますが、それ等の人々は畢竟その勉強ぶりが眞の自分の爲ではなく、試験のための勉強であつたり、容易く學んで容易く忘れる程のものであつたりして、結局「教はつた、併し學ばなかつた」といふことになるのであります。又中には教はらなかつた、それで知らなかつたと云つて知らないことを誇りとしてゐる者もあります。これでは何にもなりません。

自ら學び、自ら味ひ、自ら消化して之を血とし、肉とし骨としたもので、始めて實力を發揮し社會に立つて押しも押されもせぬものになりますのであります。

自ら求めよ、さらば興へられん！

興へられるまで求めよ！

私はこう言ひたいと思ひます。

よりよく生きるにはよく求めなければなりません。自ら求めて得た喜び、そこに眞の興味と熱心とが生れて來ます。例へば本を読むとき、人の話を聞くととき、日頃自分の切望して止まぬことに合致した時には非常な喜びを覺えます。

興味なしに、熱心なしにどうして智識を求めることが出來ませう。自ら求めやうとする力、精神力の働かない限り、自分で自分の心に鞭打たぬ限り、自己を高め、自己を深めることは出來ません。

而して智識を求めるといふことは男子にのみ必要なことでなく女子にも大いにその必要を認めるのであります。否女子には一層その必要を認めると云つた方が當つて居ます。何故なら、自ら

の力で自らを高めるといふことが今までの婦人には非常に缺けてゐるからであります。

その原因は、一には因襲的な家庭の事情と女子の今までの追従的な生活によると思はれますが今一方にはたしかに意志の弱いといふことが最大原因をなしてゐます。併し俚諺にも

『意志の向ふところ足も輕し』とありますやうに、本當に衷心から求めやうとすれば心も輕く、周囲の事情に打ち勝つことが出來るものでありますから、女子も男子と共に智識を求めて欲しいのであります。

『意志だにあらば必ずこれをなす道は開かれる』

この言葉を最後に諸君に贈つてこの拙い演説を終りと致します。

實力の獲得

諸君！ 諸君も御承知の通り近頃の世の中は非常に便利になつて來てゐます。都を遠く離れた

田舎でも、電燈もつけば自動車もあれば自轉車もある、鐵道も敷かれてゐるといふ工合で、一昔二昔前から見たらまるで嘘のやうに人の勞力は少なくて足りません。都會にあつては尙更です。併しこの便利は必ずしも幸福ばかりを生むものではありません。便利々々と人間が無暗と便利を有難つてゐる間に一方には飛んだ事が生じてゐるのであります。

一例を擧げるなら、最近都市生活をしてゐる女子を見ますのに、その通有性としてどうも裁縫や家事や炊事などにたづさはるのを餘り好まぬ風があります。その外の事でもすべて面倒臭いことはなるべく手を觸れないやうにと避けて、たゞ骨の折れない呑氣な仕事にばかりつきたがる傾向があります。

従つて何事によらず一つの事に眞面目に、眞剣に深く學ぶといふ意志は少く、本を讀むにしても家庭の爲になる實際記事とか、科學に關するもの、修養に關するものなどを眞面目に熟讀し玩味することは好まず、たゞ面白く可笑しく、或は悲しく記されたものを拾ひ讀みするものが多い

のであります。まづ堅くるしいものは後まはしにしてといふのが普通で、活字の奥に何が秘めてあるかを落付いて考へる者は少いのです。要するに生活が上すべりになつて來たのであります。併し人間の生活といふものはこれではなりません。骨の折れることはしない、堅くるしいものは讀まない、嫌ひなものはいらないで、世の中が通せれば結構ですが、なか／＼そんな虫の良いことは出來まはん。よし出來たとでもそれでは人間の本性に悖るものであります。進歩も向上もありません。ますます退化するばかりであります。

骨の折れることも進んでする、堅くるしいものも熱心になつて讀む、嫌なことも努めてする、そして自分を鍛へ、充實させてゆくといふところに人の尊さはあるのであります。

何がよいといつて好きで勉強するほど好いことはありません。好きこそ物の上手なれであります。併し好きでも一向上手でなく下手の横好きと云はれる人も澤山ありますが、そうした人も工夫し、思慮し、勉強するときは必ず上達するものです。勉強はその字の示すやうに勉めるのであ

り強ひるのであります、面白く可笑しく自由にするのは違ひます。

必要とあればどんな苦痛をも耐えてそして自己の至精神を打ち込んでゆく、何事も好きで勉強する。好んで嫌なことも進んでする。刻苦勉励する。知力も體力も意力もかく練つてこそほんとうの自分のものとなすことが出来るのであります。

急に記憶したことは急に忘却するし。急に詰め込んだものはすぐ蒸發してしまひます、試験のために餘儀なくされた詰め込み主義は要するに鍍金であります。鍍金は剥げやすい。眞の金なら金、銀なら銀とするには地質から鍛え上げねばなりません。ただ單に卒業證書を得るための方便その場限りの胡亂化しでは、將來何等かの力を具へ日常生活を意味深くするにも、社會の一員としての使命を果すにも、遺憾なからしめることは出来ません。終

昭和七年五月一日印刷
昭和七年五月五日發行

定價七十錢

特價五十錢

東京市赤坂區丹後町九七番地

編輯兼
發行兼
印刷人

森 本 光 男

不許
複製

東京市赤坂區丹後町九七番地

發行所

青年タイムス社

電話青山二八五〇番

振替東京六九一五〇番

終